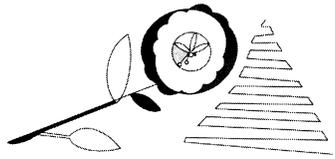


坊津の塩

宮坂静生

岸に寄す芥も春のことぶれか
流水を待つ枯荻の合掌し
胡と獮どを撃つ獵さつ夫お寸分狂ひなし
群肝の音をつつしむ寒九の夜
夢遊寒し頭蓋スライスさるごとし
わが冬の素足書齋に団子虫



生涯に一度見る本水ま泉えん動く
「坊津の華」を貰う

釜だきの坊津の塩草萌ゆる
塩の結晶真白き春の珊瑚かも
鑑真の泪か坊ぼ津うの春の塩
鶯やピザ屋の腕に刺ク青ト入れ
木の芽時火の棒立ちにピザの窯
ピザ窯に火が充ち花の都かな

